

モロクボ沢（畦ヶ丸北東面白石沢支流）初級沢講習山行報告書



【山城】丹沢 【日程と天気】 2018年5月19日 雨/曇り

【メンバー】CL大塚、SL小原、SL上茂、富樫、萱野（香）、清野、渡邊（三）、
広木（愛）、飯田、花島、樋口、吉瀬、松本、薄井、江橋、
室達（記録）、上荒磯（記録）、堀田（記録）

【行程】西丹沢ビジターセンター駐車場（8:35）－モロクボ沢入渓（10:00）
－大滝（10:30）－水晶沢出合（12:45）－越場ノ沢（13:00）
－畦ヶ丸西沢コース－西丹沢ビジターセンター駐車場（16:20）



西丹沢にあるモロクボ沢（白石川支流）にて初級沢講習が行われました。
沢講習に初参加した記録係3名による報告です。

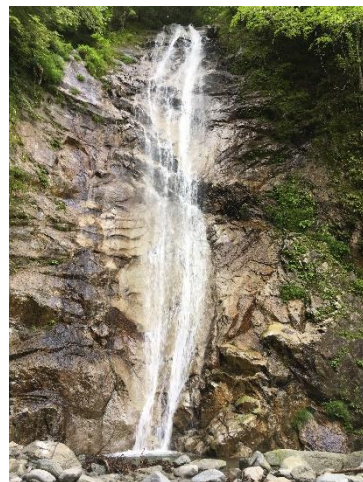
室（達） モロクボ沢は駐車場から歩いて 30 分ほど、用木沢出合ゲートのすぐ近く。沢を遡行するつもりが、途中からどんどん水量が少なくなっていき、しまいには水が途絶えてただの谷になる。ここでモロクボ沢のひとつ隣の谷を登っていたことに気づき、トラバースしてモロクボ沢と合流することに。改めて準備をしたのち入渓した。出発時は雨が降っていたが、入渓する頃には止んで日が射し始めてきた。沢の水は冷たくなく、降雨後の湿った空気にあってむしろ心地よい。大滝までは、たいして濡れなくても進めるような歩きやすい沢が続く。

しばらく歩くと大滝が現れる。苔むした岩をかんで勢いよく流れる滝の眺めはすがすがしい。降雨後のためか水勢が強く、これを直登するのはチャレンジングではあっても、やや怖ろしく感じられる。ここで初めてロープを出し、高巻きで登っていくことになる。



ロープマンやスリングでビレイしてひとりずつトップロープで登っていくため、かなり時間を要したが、自己ビレイのよい練習になったと思う。

大滝のあとは、釜をもつ小さな滝がいくつもある。滑って転倒しないように気をつけながら、右河岸、あるいは左河岸を登っていく。滑りやすい河岸をトラバース気味に歩く者、釜の付近まで入りこんでから沢を直登する者、各自のやり方で沢を登っていく。沢登りはみんなが好きに歩くところを決められて、やりたい放題な感じがとても楽しい。



越場の沢出合で急登を使った懸垂下降の練習をしたのち昼食休憩。

その後は善六山にいたる急登の尾根を登り、畔ヶ丸西沢コースの登山道に合流する。登山道の途中では 10 分ほど寄り道して、本棚沢（あるいは下棚沢だったかな？）の大滝を見物した。これまで滝は眺めて楽しむだけのものだったはずなのに、いつの間にか、どのホールドを手掛かりに登るかということで頭がいっぱいになっていた。

登山道を 2 時間ほど歩いてスタート地点の駐車場に戻った。山行前は水に濡れて身体が冷えることを懸念していたが、いざ沢に入ってみると足のひんやりとした感覚が気持ちよかった。機会があったらぜひ滝の直登に挑戦してみたいと思えるような、とても楽しい沢講習だった。室（達）

（上荒磯）

沢登りができてとても楽しかった。

沢もトレランもしてあっという間の 1 日だった。

これからもっとロープワークを身につけて挑みたいと思う。

沢リーダーさんたち、みなさんありがとうございました。上荒磯



(堀田)

沢登りは危険！沢登りは危ない！そもそも沢登りって何が面白いのかな？？

沢登りってどこを目指して登るのかな？？ピーク？？川の水源？？

まあ 自分には関係ないや～ って思っていました。が、

今夏に予定している縦走において渡渉が連続するルートがある為、沢講習に参加させて頂く事となりました。

とは言っても私は極度の寒がり・・・小学校の水泳授業でも、

担任「堀田君～プールからあがりなさ～い！」「唇が紫だよ～！」と言われ続けた貧弱者です。

そんな私が沢登りに興味を持つ事などある訳がなく、まずもって沢道具の知識が全くありませんでした。

教えを乞うたH先生より「寒がりなら**ネオプレン**で揃えるといいよ～」

「沢靴は〇〇荘のがお勧めだよ～」と教えて頂くが全くピンとこない。

ネオプレン → なんか美味しそう。

〇〇荘の靴 → メーカーが同じなら販売店は関係なくない？？と本気で思っていたのだ。

その後「初めての沢登り」HOW TO 本を購読 &

H先生に新宿までお付き合い頂き何とか道具を揃え（H先生ありがとうございました）超初心者が いざモロクボへ。

講習当日のスタート時は、本当に山行をするのかな？と思う程の雨模様。

「沢は増水の危険が無い場合は雨でも決行するよ。シーズンも短いからね。」と教えて頂き納得。

身支度を整え、林道を歩き、再度 登高器の使い方を確認し遡行開始。

初めて履いたフェルト底の沢靴は、濡れた川石の上でも滑らず不思議な感覚で驚いた。沢沿いの河原部分を進む。時折足が水に浸かるが想像していた冷たさを感じなかった事に安堵した。相変わらず沢沿いのゴーロを進む・・・

SL の U さんが水際でツルツルに磨かれた岩場を絶妙なバランスでトラバースしている。あれが「へつり」というやつだな・・・でもなぜ今？何の為に？・・・やがて現れた「大滝」では登高器を使用し順番に高巻く。順番待ちしている間に見上げた目の前の見事な大滝は水資源が豊富な日本の大自然を感じさせてくれた。

いよいよ自分の順番となり 滑るのでは？？と恐々としながらも魔法のフリクションのおかげもあり なんとか登りきる事ができた。

その後もなるべく流れの無い河原や石の上をジャンプして進む。

H 先生から「登山道じゃないんだから自分が楽しいと思うルートを進んで良い

んだよ！」と声を掛けて頂き、意を決し水深が判別しにくい淵の中に足を突っ込んでみた。水の屈折なのか想像以上に深く腹部まで水に浸かってしまったが何だか気持ちが良い！目の前で二股に分かれた小滝の大きい方を登ってみる。水流で分かりづらいホールドを手探り・足探りで登ってみる。ずぶ濡れになったけど面白い！！

沢講習も終盤になってようやく気が付きました。

目の前にある水・滝・岩・自然を自らの創造力で楽しむ物だという事を。SLの絶妙な「へつり」の真似をしてみなかった事を後悔しても時すでにおそし・・・

その後、懸垂下降を教えて頂き下山となりました。

〈 講習を終えて 〉

「沢登り」といっても、今回体験させて頂いた涼やかな溪谷歩きから大滝やゴルジュに挑む険谷突破の山行まで様々なレベルがあるのだと思います。講習に参加させて頂いて私が感じた事はやはり「危険」でした。

私自身の遡行技術・知識が皆無であるが為に感じる危険なのだと思います。

又、初めて沢を歩いてみて 自然の恣意性や偶発性に最も注意しなければならない山行形態であるという事も理解できました。

その反面、水と直に戯れ、目の前の状況を創造力で持って楽しみ、自然と一体になれる感覚はこれまでの経験にない新鮮で楽しいものでありました。

いつか技術・知識・経験を積み「危険」ではなく「困難」として楽しめる様に是非なりたいと感じさせていただいた講習でした。

最後になりましたが、現地調査を重ね、報告を作成し、講習を準備して下さった CL をはじめ SL・講師の皆様に心から御礼申し上げて 私の山行報告とさせていただきます。

お世話になった皆様、ありがとうございました。

また宜しく願いいたします。 堀田

 活動時間	7時間42分
 活動距離	8.77km
 高低差	559m
 累積標高上り/下り	713m / 711m

